2008～2009年度
中津平成週報

国際ロータリー2720地区 中津平成ロータリークラブ

会長 加来敏男　幹事 矢頭和敏　会報委員長 田原和己

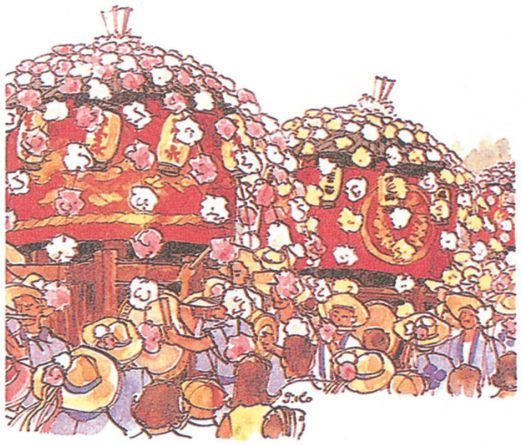
例会日／毎週木曜日 12：30　例会場／中津オリエンタルホテル ☎24-8111
事務局／〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F
☎0979-22-9716　FAX 0979-22-9722
e-mail office@n-heisei.org　http://www.n-heisei.org/

2008～2009年度　国際ロータリー・テーマ

夢をかたちに

Make Dreams Real

国際ロータリー会長　李　東建



第901回例会　平成20年9月25日（木）

◎本日の例会プログラム

観月例会　森の風（上毛町友枝）18：30～
担当：親睦委員会

◎次回例会プログラム　ゲスト卓話「中津商工会議所青年部活動について」青年部会長　四方　学氏

前回（900回例会）の記録
平成20年9月18日（木）

■ビジター
なし

■出席報告

会員数	26名
免除者数	0名
対象者数	26名
本日出席者	24名
欠席者数	2名
出席率	92.31%

■前々回出席報告の修正

前々回欠席者	5名
メイクアップ	3名
欠席者	2名
修正出席率	80.77%→ 92.31%

●メイクアップ
熊谷（大分キャピタル）、二反田（中津）
若松（中津中央）

●欠席者
小路、渡邉

◎ロータリーソング　手に手つないで

◎会長の時間　会長　加来敏男

皆さんこんにちは。ガバナー公式訪問も終わり一息ついたというところです。私は先週金曜日の朝から東京に行って来ました。インプラント学会が金曜日の夕方から日曜日まで3日間有楽町であり、その後月曜日、祭日はドイツのインプラントメーカーの特別講演会が六本木ヒルズ：森ビルの49階であり、3泊4日でした。六本木ヒルズ49階からの景色は素晴らしく、東京全体を見下ろし、遠くに新宿の高層ビル群が霞んで見え、バブルの象徴みたいな感じで最高の気分でした。講演会場の同じ階に会員制の図書館があり、ここで読書や勉強している人たちがいて驚きました。

ところで昨日の新聞に、アメリカのリーマン・ブラザーズ証券の経営破綻でアメリカ市場が大混乱しているという記事が載っていました。日本の証券会社や金融機関にも少なからず影響がありそうで心配です。どうか我がクラブの会員の業界や会社に悪影響が出ないように祈っています。

来週は観月夜間例会です。場所を変えて楽しみたいと思います。宜しくお願いします。

◎幹事報告　幹事　矢頭和敏

●例会変更　別府RC、津久見RC、別府東RC、湯布院RC、別府中央RC
●週報受理　熊本平成RC、八代RC、津久見RC
●週報お礼　緒方パストガバナー
●幹事報告
・訃報（1998-99年度地区ガバナー　東勝俊氏）
・熊本南RCより50周年記念式典のお礼状届く。
・荒尾RCより30周年記念誌届く。
●理事会報告　例会終了後、理事会を行います。

◎委員会報告

・親睦委員会
9月25日（木）の例会は森の風です。6時に中津駅からバスが出ます。

・SAA
来週の例会はカジュアルで良いです。10月からはネクタイ、上着でお願いします。

・会員増強委員会　永松委員
会員増強の推薦カードを出してください。会員は必ず1名お願いします。

◎ニコニコボックス

担当：親睦委員会

・加来会長

先日、東京に出張してきました。会場は六本木の森ビルでした。凄いと思いました。今週末は大阪へ出張なんですが台風と一緒になるのではと心配しています。

・田原会員

先日の北京五輪マラソンで金メダルを獲得したワンジル選手は大分県宇佐市のスポーツマネジメント会社（山内英生社長）に所属していて山内社長は私の友人なので驚きました。

◎会員卓話

「新世代月間について」
新世代奉仕委員会　松本幹夫委員長
ロータリーの活動の一部を紹介します。

ポリオ撲滅に向けて始動

ポリオ、ご年配の方には「小児まひ」といった方がわかりやすいかもしれません。かつて、日本でも大流行をしたことがありますが、ポリオウィルスは手や足などにまひを起こさせることがあります。肺の筋肉がまひすると、呼吸ができなくなって死に至ることもありますし、足がまひして歩けなくなることもある恐ろしい病気です。

1979年9月、国際ロータリーは、フィリピンで、生後3か月から36か月の子ども約600万人に対して、5か年計画のポリオ免疫活動を始めました。これが、ロータリーがポリオ撲滅に取り組んだ第一歩です。

1985年、国際ロータリーでは、ロータリー創始80周年に当たって、「ポリオ・プラス計画」を発表。プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核を指しますが、ポリオだけでなく、これらの病気についても予防接種を実施することになりました。1985年は、国連総会で、ユニセフの「予防接種普及事業（EPI Expanded Programme of Immunization）」推進決議が、国連40周年記念事業となった年でした。当時、各国元首とともに、ロータリーもNGO（非政府組織）として、この決議に賛同、署名しています。

日本では、これに先駆けた1982-83年度、東京のロータリアン（ロータリークラブの会員）たちが、南インドにポリオワクチンを送り、地元のロータリアンと協力して子どもをポリオから救うことを計画し、実行しています。

日本国内では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から、5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まりました。日本中のロータリアンが積極的に取り組み、このキャンペーンが展開されていた1986年7月から1991年6月までの5年間で、目標額をはるかに超える約49億円の寄付金を集めることができました。

国際ロータリーでは、1989年6月までの3年間をキャンペーン期間としていましたが、この間で米貨2億4,700万ドル（約270億円）を集めました。これは目標額の2倍に相当します。

ロータリーが創立100周年を迎える2005年2月までにポリオの撲滅を実現しようと、国際ロータリーでは、2002年に、新たな「ポリオ撲滅キャンペーン」を展開しました。この時点で、ポリオは99％撲滅したといわれていましたが、残りの1％は、紛争地帯やへき地など、ワクチンを投与するのに困難な地域が多く、それまで以上に多くの資金を必要としていました。目標額は8,000万ドル（約90億円）です。この結果、2003年6月末の時点で、誓約も含めて1億1,150万ドル（約126億円）以上が集まりました。

さて、1979年、ロータリーが初めてポリオの撲滅に乗り出して以来、ロータリアンたちは、もちろんお金を集めていただけではありません。多くのロータリアンが道路もないようなへき地に分け入り、紛争地帯に赴き、実際にポリオワクチンを子どもたちに届けるための活動もしています。紛争地帯では、双方の代表者を説得してポリオワクチン投与のために一時休戦にしたり、宗教上などの理由からポリオワクチンの投与を拒む人々を説得したり、さまざまな活動をしてきました。

世界中のさまざまな地域にロータリークラブがあり、ロータリアンたちが活動をしています。それぞれの地域で、ロータリアンたちがさまざまな形で、すべての子どもたちにポリオワクチンの投与をするために努力を続けています。

識字率向上

日本では、読み書きができるということは当たり前のことのように思われています。しかし、地球上には読み書きができない人たちがたくさんいるのです。読み書きができなければ、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを余儀なくされますが、そればかりではありません。例えば、薬の飲み方が書いてあっても読むことができないので、どのように飲んだらいいのかわからないのです。

ロータリーでは、全世界のすべての人たちが、読み書きができるよう、識字率が向上するように、さまざまな活動をしています。発展途上国のへき地の村に学校を建てたり、教科書や鉛筆、ノートなどを送ったりしています。

文字が読めないのは子どもたちばかりではありません。成人、特に女性に、文字を理解できない人がたくさんいます。おかあさんが読み書きできるようになると、その子どもたちに教えることもできるし、家計を支えるための仕事に就くこともできるようになります。このような理由から、ロータリーでは、成人女性に対する教育も支援しています。

オーストラリアの原住民であるアボリジニの人たちに英語を教えるため、同国のリチャード・ウォーカー博士がCLE（Concerned Language Encounter）という言語教育法を開発しました。ウォーカー博士はロータリアン（ロータリークラブの会員）です。CLEというのは、例えば、子どもたちなら画用紙からお面をつくったり、人形をつくったりという簡単な工作をしながら文字を教えていきます。成人の女性なら、料理や裁縫、手工芸といった実用的な、そして収入にも結びつくようなものを取り上げて、そういった作業をしながら文字を学んでいきます。

楽しいこと、実益に結びつくようなこととともに文字を学ぶことができるので、途中で挫折する人が非常に少ないといわれています。また、費用も少なく、短い期間で学ぶことができます。

したがって、多くの国のロータリアンたちは、この教育法を使って、多くの子どもたちや成人女性に文字を教えたり、先生の育成をしたりしています。

文字が読めないと良い仕事に就くことができず、生活は貧しくなります。貧しいが故に、その子どもたちは学校に通うことができず、文字を覚えることもできません。そして、良い仕事を見つけることができず、貧しい暮らしを強いられます。こうした貧困の連鎖を断ち切るためにも、ロータリアンたちは、世界中のいろいろな地域で、すべての人たちが読み書きができるよう、活動を続けています。

（文責：田原）